

## 匝瑳市版生涯活躍のまち形成事業

平成 30 年度 第 3 回 飯倉駅前地区まちづくり協議会 議事録

日時	平成 31 年 3 月 2 日 (土) 15 : 15 ~ 16 : 30
出席者	<p>■協議会委員</p> <p>井上 峰夫 社会福祉法人九十九里ホーム理事長 飯島 長男 前匝瑳市豊栄地区シニアクラブ副会長 大塚 栄一 匝瑳市商工会副会長 鈴木 弘 匝瑳市シルバー人材センター会長 栗山 恭典 千葉興業銀行法人戦略部長代理 代理出席 伊場 寛人 千葉興業銀行八日市場支店長 加瀬 功一 匝瑳市ボランティア連絡協議会長 増田 利夫 豊栄地区社会福祉協議会長 飯島 正義 豊栄地区区長会長 椎名 英夫 幼稚園・保育園運営者代表 大関 明 須賀地区区長会長</p> <p>■事務局</p> <p>社会福祉法人九十九里ホーム 鈴木 敦子 事務長 鎌形 和宜 総務付</p> <p>特定非営利活動法人元気な日本をつくる会 須田 憲和 組織運営本部長 武藤 克哉 組織運営本部事務局長</p> <p>■オブザーバー</p> <p>匝瑳市 大木 寛幸 匝瑳市企画課長 林 雅之 匝瑳市企画課まちづくり戦略室長</p> <p>株式会社 studio-L 西上 ありさ Community Designer</p>

議事録	事務局	1 開会 開会のあいさつを行った。
	事務局	2 議事 第2回協議会／専門部会を踏まえて (1) 移住・定住 PR 手法について (2) 支援プログラム（移住者向けサービス）について (3) その他検討事項について  今後のスケジュールについて
	事務局	ここまでのところ、ご意見いかがか。
	A 委員	大体大枠は分かってきた。具体的にどのように動いていくか、ということが重要ではないか。
	B 委員	これからは実際に動いていかなければならない。 一つ事務局へ質問だが、目につく PR はどのようなものを想定しているのか。
	事務局	HP の作成を検討している。HP を作成するとき一目で興味を沸くような仕掛け作りをしていく。
	C 委員	成田空港へのアクセスはどのようなことを検討しているのか。
	事務局	前回出た意見としては、バス便等を増やしてもらいたいという意見があった。 また、進学による転出も出ているとの意見もあった。転居してしまうと縁も無くなってしまう。
C 委員	市民農園で作った農作物は交流センターでの販売はできないのか。	
事務局	そういったことも検討していく。	

	<p>C 委員</p> <p>匝瑳市</p> <p>D 委員</p> <p>E 委員</p> <p>事務局</p> <p>F 委員</p> <p>G 委員</p>	<p>市を PR していくのに、神社仏閣等の施設の歴史を綴ったものはあるのか。</p> <p>まとまっているものは無いが、集めれば作ることも可能だろう。</p> <p>ハードのスケジュール等順調に進んでいる。ソフトの面での PR 等が重要であろう。</p> <p>市民農園で作った作物は売れるほどの数量は無いかもしれない。</p> <p>現在市民農園は 2 箇所あるが、計画地近隣で遊休農地を提供してもらえる地主がいるとすれば、早めに動いた方が良い。</p> <p>また、観光名所はリストアップしているのか。</p> <p>食文化の体験とあるが、表に出せるようなメニューはあるのか。例えばおらが井や勝浦タンタンメンのようなものはあるのか。</p> <p>観光名所についてはまだリストアップはしていない。</p> <p>食文化について回答すると、例えば匝瑳市には赤ピーマンといった特産品もある。ワークショップのような形で、生産者、調理師、市民、といった方々が参加して、レシピ開発や、コンテストを開き、地元の特産品にしていくのはどうか。</p> <p>「市政だより」でアンケートを徴求したり、まちの自慢できるものを調査するといったこともできるのではないか。そういった市民の声を吸い上げることもできるのではないか。</p> <p>この 10 年間くらいで匝瑳へ移住した人が 700 人くらいいるとのことである。</p> <p>実際に匝瑳市へ移住した人の意見を聞いてみたらどうか。</p>
--	---	--

	<p>H 委員</p> <p>28 年度から計画は着々と進み、32 年度には箱モノは完成する。</p> <p>市の行政と、九十九里ホームとの連携を図り、積極的に取組んでもらいたい。</p> <p>市の観光名所として巨木の登録があるはず。そういったものの活用をしてみてもどうか。</p> <p>匝瑳市</p> <p>I 委員</p> <p>潜在的な移住希望者は一説によると 71 万人いるといわれている。強く希望している方は 51 万人いるとのこと。ニーズはあるはず。あとはこちらがどう答えていくか。</p> <p>人生 100 年どう生きるのか、テーマをどうするのかということが必要ではないか。</p> <p>体験についてはお祭りを起点とするのは良いと思う。</p> <p>また、移住者ケアについては九十九里ホームの持つ強みをより発揮してもらいたい。</p> <p>大枠は良いのではないかと。予算が無尽蔵にあれば色々考えられると思うが、費用対効果を考え、市との協力を得ながら PR してもらいたい。</p> <p>A 委員</p> <p>移住・定住してもらった人に良いことばかり伝えるだけでいいのだろうか。</p> <p>区会に入ってもらえとか、地域の活動に参加してもらえとか、そういったことも伝えるべきなのではないか。</p> <p>井上峰夫 委員長</p> <p>オープンにしていかなければならないだろう。逆に周りの方々との交流を求めている人もいる。</p> <p>西上ありさ (オブザーバー)</p> <p>日本一移住者の多いまちの仕事をやっていた。どういうことをやっていたかというと、隠岐の島の海士町の移住の仕事をしていました。</p>	<p>市内の観光名所ということで、沢山あるが関連性がないために切れてしまっている。ただし、一つ一つの歴史は深く、1000 年以上の歴史をもつ所も少なくない。</p>
--	--	--

	<p>人口の 2 割が移住者のまちである。若い人でいうと移住者の方が多い状況。ただし増えることはない。自然減が多いので人口減少は止まらない。</p> <p>若年層が 5 名しかいなかったところに 20 名くらいになる。そうなるとうどうなるか、地元の人と移住者との喧嘩が起こる。</p> <p>移住者はアウトドアが好きであったり、自然に配慮したことが好きだったりする。移住者は地元の人が食堂でタバコを吸うことが許せない等、考え方に違いが生じる。</p> <p>移住者側も変わらないといけませんが、まちの施策として移住を推進するのであれば、受け入れる側も変わらなければならぬ。</p> <p>例えば住宅施策一つとっても、移住者向けに集合住宅を整備すると移住者は幻滅する。アウトドア志向の人が入ってくるという理想像を作って、住宅施策も海側の戸建てでないといけぬと考える。</p> <p>あと、移住者の子どもたちは大学に進学する可能性が高い子ども達である。しかしながら島の高校は進学校ではないため、中学進学に伴い人口流出してしまう。</p> <p>その時に行政は何をしなければならぬのか考え、高校のブランディングを行った。外からも入学してきたくなるような進学校への変革を、10 年ぐらい掛けて行っている。</p> <p>まとめとして、移住・定住施策を検討するならば、どういふ人達に移住してきて欲しいのか、とういふことをしっかりと決めた方がよい。</p> <p>移住してきて欲しい若者像に合わせて、やらなければならぬことが決まってくる。それは誰かに例えてもいい。移住してきて欲しい芸能人に例えてもいい。</p> <p>匝瑳市の持つ樹木、歴史、祭り、畑といった魅力を、来て欲しい理想像がどうつながるのか、それが固まらぬとキャッチコピーが定まらぬ。</p> <p>海士町では、「ないものはない！」とういふキャッチコピーを作った。</p>
--	---

		<p>東京がこのコピーを使えば嫌味でしかないが、本土からフェリーで4時間半掛かる島がこのコピーを使ったら、どちらの意味にも取れる。全てがあるという意味なのか、何も無いという2つの意味と取れる。</p> <p>移住政策のコピーでもあるし、特産品作成のコピーにもなる。特産品を作る時に「ないものはない」と言えば、化学調味料が入ってないことになる。地元の特産物だけで作っているということにもなる。</p> <p>このキャッチコピーは、何かを作り出す時の指標にもなるし、人の心に刺さるコピーにもなるし、自分達の姿勢を表す言葉になる。</p> <p>来て欲しいターゲット像が定まればこういうこともできる。実際にこのキャッチコピーに魅かれて来る人は多くいる。</p> <p>ある程度ターゲットを絞らないといけないということは理解できた。</p> <p>絞れば絞るほど、ターゲットとなる方の移住は当然として、その周囲にいる人達も呼び寄せることとなる。</p> <p>みんなの公園と言っている公園ほど汚い。管理されていない。俺の畑と言っている方がきちんと管理されている。安心できる。</p> <p>思いっきりマニアに絞っていい。</p> <p>匝瑳市であればお祭りが印象的ということなので、お祭り家族、お祭り夫婦が魅かれるまちはどういうまちなのか、ということを徹底的に考える。そういったことが施策になる。</p> <p>1000年以上の歴史があるところはそんなに多くない。歴史は真似できるものではないので面白い。絵巻もたくさん残っているはず。あれは昔の議事録である。大名行列の時にどのようなもてなしを行ったのか記載されている。例えばそれが特産品作成のヒントになるかもしれない。</p> <p>移住・定住施策は全国どこでもやっている。大体が、「うちの地域はこんなに魅力的だから来て下さい。」といったこ</p>
	井上峰夫 委員長	
	西上ありさ (オブザーバー)	
	須田憲和 (事務局)	

		<p>とを発信して終わってしまう。</p> <p>本当に必要なのは、移住・定住者が来たときにいかに受入れ体制を作るかということが重要である。</p> <p>どういった人を呼びたいのかということを定めればコンセプトができる。そういったコンセプトは明確にしたほうが良い。</p> <p>ハードに関するタイムスケジュールは順調にきているが、ソフトに関するタイムスケジュールは次年度以降の課題として残っている。</p> <p>これからは、事前準備と資金準備と誰がやるのかということが重要になる。</p>
	事務局	4 閉会